

あったかハート推進週間の取組(3月)

今年度、附属小学校では子供たちに温かな心を一層育むことを重点として取り組んでいます。 3月は、以下の内容で道徳科の授業を行いました。

	月	期間	内 容
-	3月	3/1 (水) ~3 (金)	道徳科の授業④ 内容項目:親切,思いやり

1 実際の授業

【1年生】



1年生は資料「ないちゃった」を読んで、仲直りをするために大切なことは何かについて考えました。 主人公の女の子が持っているボールを、ボールがほしい年下の「のりくん」が奪い取ろうとしたとき、 のりくんが怪我をして泣いてしまうという話です。以下の3つの考えのうち、どの考えに賛成なのか、 ネームプレートを貼ってから話合いをしました。

①「のりくんが悪いんだよ」と伝える

「まず、のりくんが謝るべき。のりくんのためにも注意した方がよい」という考えです。その際、優しく言うべきか強く言うべきか、議論になりました。強く言うべき派は「強く言わないと本人に届かないかもしれない。次に気を付けてほしいというメッセージを伝えたい」、優しく言う派は「強く言うとケンカになって、これから仲良くなれないかもしれない。心に届くように言う方がよい」と発言していました。それぞれのよさを理解しながら、場合によって使い分けることの大切さを感じていました。

② 「一緒に使おうか」と伝える

「兄弟や友達がかわいそうだし、一緒にボールを使いたいのかもしれない。一人じゃなくて二人が笑顔になった方がよいし、一番仲直りにつながると思う」と発言していました。

③ 泣いてしまい仕方がないから、貸してあげる

「ボールを貸してあげると問題が解決するし、みんなが笑顔になる」と発言していました。「自分が遊べなくなってしまうから、ボールを順番に使えばよい」という新たなアイディアも出てきました。

授業の終末で、友達と仲直りするにはどうすればよいかを子供に尋ねると、「自分がしたことを反省 して、自分から謝ればよい。その後、一緒に遊べばよい」という考えが出てきました。

また、友達の考えを聞いて、自分の考えを変容させる子供もいました。学校という集団で過ごすと、価値観の違う友達と出会ったり、様々な場面に遭遇したりします。これからも互いの価値観を尊重し合い、互いを理解し、みんなが笑顔になる解決策をつくり上げていってほしいと思います。

他の学年でも、各学級で真剣に話し合い、温かい心で接することのよさを感じていました。